令和５年度第１回茅野市地域創生総合戦略有識者会議（会議録）

開催日時	令和５年11月14日（火）　午後６時30分から午後８時45分まで		
開催場所	茅野市役所８階大ホール		
公開・非公開の別	(公開)・非公開	傍聴者の数	０人

議題及び会議結果

発言者	協議内容・発言内容（概要）
事務局	１　開会　(18:30)
市長	２　あいさつ 皆様、こんばんは。大変お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。第２次茅野市地域創生総合戦略は、４年目を迎えているところです。若者に選ばれるまちをテーマに掲げて取り組んできましたが、確実に成果が出始めているのではないかと思っています。この後に、細かい数字やデータについての話を予定していますが、KPI 等の数字では表せない成果というものもあるのかなと私自身は感じています。 一つ例示できるものとしては、デジタル田園健康特区の指定を受けたことにより、医療や福祉の分野だけではなく、様々な企業からの問い合わせも非常に増えていますし、若い方たちが駅前や蓼科周辺において、様々な活動を始めています。外から来た方たちと地元の方たちが融合するような形で、様々な事業をやっており、何か新しいことが始まりつつあるという雰囲気を非常に感じていますし、実際に若い方たちがそうした形で来てくれているということを、実感するようになりました。 また、移住交流事業等の中で、長年の懸案でありましたグリーンヒルズヴィレッジについて、私が市長に就任した当時は100区画近く売れ残っていましたが、令和４年に完売しました。喜ばしいことに、30～40代の方の購入もかなりありまして、若者に選ばれると一言で言ってみても、そうした方たちが働ける場所や休日を楽しめるフィールドがなければなりませんし、いわゆる総合力であるという認識で私たちも取り組んできましたが、実際に来ていただいたり、興味を持っていただいたりという成果が出ていることは、大変ありがたいと思っています。 今申し上げたことは、私の感覚的な部分が多い話ですが、実際に数字ではどのような形になっているのかという点も含めて、この後にご説明させていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
	３　委嘱書交付
	４　会議事項 (1) 第２次茅野市地域創生総合戦略の進行管理について　資料１
市長	・資料１の説明に先立ち、茅野市の主な事業や取組について、パワーポイントのスライドを用いて、市長が説明を行った。
事務局	－資料１について企画課説明－

委員	コロナ禍前との比較が重要であり、平常時と比較して現在の数値がどうであるかということを、特に観光分野などは意識する必要がある。コロナ禍前と比較して、数値が伸びていることに意味があると考える。
事務局	現状値の列に表記されている数値が令和元年度の実績であるため、この数値と比較することにより、コロナ禍前との比較が可能である。ただし、この数値が令和元年度の実績であることがわかりにくいため、表記を見直したい。
委員	基本目標 3 の新規就農者数について、目標値が 25 人になっているが、どのような算出によるものか。
事務局	令和 2 年度から令和 6 年度までの 5 年間において、1 年間で 5 人ずつ、5 年間の累計で 25 人を目指すという目標設定になっている。
事務局	(2) 地域再生計画に関する令和 4 年度分の実績報告について ① 地方創生推進交付金対象事業 資料 2 ② 企業版ふるさと納税 資料 3 －企画課説明－
事務局	(3) 茅野市デジタル田園健康特区形成事業の取組結果について 資料 4 －ＤＸ推進課説明－
委員	共通ＩＤの利用者はどの程度いるのか。
事務局	登山用アプリ「ヤマレコ」における活用がほとんどであり、そちらの登録者数が 750 人程度となっている。
委員	共通ＩＤにより、様々なコンテンツにアクセスできるという解釈でよいか。
事務局	様々なアプリやサービスにおいて個別にＩＤがあるが、それらを共通ＩＤとひも付けることにより、都市ＯＳを介してそれらのサービスにつながるといったイメージになる。
委員	ということは、対象者は市民に限らないという認識でよいか。
事務局	そのとおりである。
委員	私ものらざあを利用しているが、年代別の利用状況はどのようになっているのか。
事務局	詳細なデータを今持ち合わせていないため、おおよその感じになるが、70～80 代の利用が 5 割程度、20 歳以下の利用も多い。
委員	やはり、30～50 代は会社勤めで利用割合が低い状況であるのか。
事務局	おっしゃるとおりである。学生は通勤・通学バスを利用するケースが多い。流動を見てみると、諏訪中央病院や商業施設、温泉などが多く、高齢者の利用割合が高い中で、そのような傾向が表れている。

事務局	(4) 第6次茅野市総合計画の策定について　資料5 －企画課説明－
委員	ゴールから考えるバックキャスティングの手法においては、言葉だけでなく、実際に茅野市が将来このような姿になりたいというものを、絵などで示さなければ、わかりにくい状態になってしまうと思う。その点について、どのように示していくかということが、バックキャスティングの手法において、最も重要になってくると考える。 それから若者を呼び込むという点について、茅野市には公立諏訪東京理科大学の学生が1,000人程度住んでいるが、人口50,000人の市にとっては2%に相当することになる。その若者を通じて別の若者を呼び込むことができるどうか、そのためにうまく活躍してもらうということが、非常に重要になってくると考えられるため、大学と一緒に取り組んでいく必要がある。また、一旦市外へ出ても、後で戻ってくることができる、往還の部分の仕組みも考えていかなければならないと思う。 最後に縄文文化に学ぶという点について、縄文時代は黒曜石を中心に交流が生まれていたと思うが、それに代わるような令和の時代にとって鍵となるもの、「令和の黒曜石」を茅野市として見出していくことができれば素晴らしいと考える。
事務局	一点目のイメージできるようなイラストという部分について、茅野市地域創生総合戦略においても、若者に選ばれるまち構想のイラストがあり、全体をこのような形にしていくというものを、皆様にイメージしていただくことは非常に重要であると考えるため、第6次総合計画についても、そうしたイラストを組み込んでいきたいと考えている。
市長	実は今日、公立諏訪東京理科大学の野球部が、全国大会出場の報告に来てくれた。その中で、地元のまちづくりにも色々と関わりたいといったような話もあり、それによりこの地域をもっと知りたいとのことであった。そのような需要も実感したため、我々もよく考えていかなければならないと改めて思った。また、「令和の黒曜石」という非常に重要なキーワードをいただき、大変参考になった。
副市長	公立諏訪東京理科大学の学生を活用してというお話があったが、やはり人というものが本当は大きな資源であり、「令和の黒曜石」になり得るのではないかと思う。学生がこの地域に留まってくれることも当然重要であるが、この地域で学び、その後に全国各地で活躍してくれるのであれば、それが本当に「令和の黒曜石」になるかもしれない。物だけでなく、人をここで育てていくということが、とても重要であると感じている。
市長	今日来てくれた学生の中にも、ここで働きたいと言ってくれた学生もいた。やはり、この地域を知ることによって、ここで働くのもありかなと思ってもらえるという、非常に可能性を感じたところである。
委員	1ページにパワーポイントのスライドを2枚割り付けている資料であったため、作成者の意図や構成を読み取りにくいと感じた。また、後半は前半までと少し組み立てが異なっており、そうした部分でのわかりづらさもあったと思う。

	もう少し見せ方を工夫して、初めて見る人にもわかりやすい形の整理を心掛けてほしい。内容自体は素晴らしかった。
市長	全体のレイアウトについて、もう少し工夫をしていきたいと考えている。
委員	まちづくりの成果指標と目標における将来展望人口について、ある程度現実的な推計の数字を目標にするよりも、ゴールから考えるという中でどうせなら、もう少し高い数字を目標に設定する意気込みが望ましいと感じた。
市長	私は日頃から、様々な取組をしてじたばたしてやっと現状維持であり、それをやらなければ衰退していくということを職員に伝えている。じたばた様々な取組をして、何とか今の 55,000 人という人口を維持しているという認識でいる。そこからさらに高みを見据えてというご意見であったが、今後検討させていただく。
委員	交流という部分について言えば、入区の問題があると思う。小学生の子どもがいるような家庭は、小学校や地区行事の関わりなどを考えて、入区してくれる場合が多いが、老夫婦だけのような場合はなかなか難しい。有事の際の安否確認などにおいて、どうしても区民が優先になってしまう部分もあるため、どのような考えで入区しないのか、知りたいという気持ちがある。アンケートなどを実施してみてもよいかもしれない。
市長	先日、玉川地区の中沢区で餅つき大会があり、移住してきた方なども参加していた。色々とお話を伺ってみると、やはり地域の人たちと知り合いたいという思いがあり、こうした機会でもなければ、なかなかその場所がないということで来ていた。小さい子どもがいる方は、それを求める傾向が強いと思う。 一方で高齢者の方の場合は、区役が回ってきて大変であるとか、そちらの方に考えが及ぶ傾向があり、集団で退区という事例が実際に起きてしまっている区もあって、老夫婦というケースが多い。市としても、何とか入区していただきたいという思いで取り組んでいるが、なかなか効果的な手立てを見つけられていない。 そのような状況下において、モデル区を 4 つ選定し、区役の問題などを議論して、何か効果的な手法がないかを模索しながら実証を行い、うまくいった事例を市内に広めていくという取組を始めている。
委員	地域幸福度という考え方はとても大切であり、幸せを実現できるというよりは、幸せを実感できることが重要であると個人的には感じている。 それからもう一点、先日参加した研修会の中で「大転換」という言葉が非常に印象に残った。今までと同じような 5 か年計画を策定しても意味がないため、茅野市も思い切って大転換するという視点も必要であると思う。 例えば、茅野駅に降りたみなさんがどのように感じるか、どのような目的で茅野駅に降りたのか、ということである。個人的には、松本駅に降りると何となく足が軽くなるような感覚がある。茅野駅との違いは何なのであろうか。 先日、小淵沢駅を利用する機会があったが、大きく変わっていた。観光客と地域の方々の両方に合った作り方になっていて、とても参考になった。茅野駅も少し大きくなりすぎたと感じる部分もある。小さい駅の発想が、参考になることもあると思う。

市長	大変参考になるご意見をいただいた。大転換という要素は現在の素案にも含まれているが、もう少し前面に押し出してもよいかもしれない。駅については、現在のものを小さくするということは難しいが、冒頭にも説明させていただいたように、ベルビアと駅ビルとの往来をどのように考えるのか、お客様目線でどのように考えるのかという部分が、今まで足りなかったという反省点もある。自分たちが使うという視点も大事ではあるが、お客様が使いやすいという視点についても、駅の場合は必要になってくると考える。若い方たちを中心に、色々と議論しながら取り組んでくれているため、期待したいと思う。
地域創生政策監	入区の問題については、突き詰めて考える必要があると考える。まちづくり懇談会でもその話題が多いが、入区してくれていないという状況下において、積極的な対話がなくなってしまっている可能性がある。そうした雰囲気の地域になってしまっているのかもしれない。これからの対話の場所として、公民館が活用できるのか、それ以外のコミュニティを構築できるのか、やはり対話が生まれるということが、この地域の交流を維持するために必要であると思う。 それから、構成が少しわかりにくいという点について、目的～目標～価値観～手段という流れが、少しわかりにくかったかもしれない。やはり、市民と一緒に活動する計画であって、市だけが取り組んで市民を幸せにする計画ではない。目的があれば、そのための戦略があり、我々は交流をその戦略として選択した中で、どのような視点で取り組んでいくのか。それが基本的な価値観ということになると思うが、未来を見通したときにどの時点でその戦略を戦術、いわゆる手段に変えていくのか。市民と一緒に取り組んでいくことを考えれば、その辺をもう少しわかりやすく整理する必要があると感じた。 そして、「令和の黒曜石」を見出していくというお話について、中にいる人たちが幸せそうであるから、その土地に行ってみようという要素もあるとは思うが、幸せを追求していく上で、幸せを生み出すということは、外への貢献という要素もあると考える。茅野市の価値が高まって、茅野市以外の地域にも利するということも、幸せを生み出していく一つの視点になろうかと思う。大変参考になるヒントをいただき、人材育成をはじめとして、様々な新技術であるとか、そうしたものが茅野市以外の地域にも利する、そうした形の貢献もできるという部分についても、テーマの一つとして考えていくことができればと感じた。
事務局	5　閉会　(20:45) 以上